

2023 年度 環境過敏症分科会活動計画書

北條祥子^{1,2)}, 水越厚史³⁾, 黒岩義之^{4,5)}

- 1) 東北大学大学院, 2) 尚絅学院大学, 3) 近畿大学医学部環境医学・行動科学教室,
4) 帝京大学医学部附属溝口病院脳神経内科・脳卒中センター, 5) 財務省診療所

1. 背景と目的

環境過敏症とは通常では問題にならないような身の回りの微量な化学物質（室内空気汚染物質・受動喫煙・医薬品・殺虫剤・芳香剤・柔軟剤等）、生物的要因（カビ、ダニ、花粉、ウイルス等）、物理的要因（音、光、地震、低気圧、パソコン・スマホ・MRI 装置等からの電磁場など）により、多器官に多彩な症状が現れる健康障害の総称で、代表例はシックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁過敏症である。アレルギー疾患と密接に関係しており、種々の要因の複合影響で、その病態は科学的に未解明なことが多い。本分科会の目的は国内外の研究者と共同研究・情報交換をしながら、科学的に未解明な環境過敏症の病態解明、診断基準の確立、治療法・予防法の確立をめざすことである。

2. 2023 年度活動計画

- 1) 第 31 回日本臨床環境医学会学術集会で、日台国際シンポジウム「Current status of patients with environmental hypersensitivity and future prospects for prevention of its onset in Japan and Taiwan」を企画する。その報告書を作成する。資料整理・報告書作成アルバイト代として、15,000 円（1000 円 x15 時間）を計上する。
- 2) 「児童生徒の環境過敏症に関する全国規模疫学調査(担当；永吉雅人)」に協力する。
- 3) メーリングリストを通して、環境過敏症に関する基礎的な知識・情報・文献および現状に関する調査結果などの情報交換・共有を行い、メンバーが分担して整理し、公開できるものは学会ホームページ・分科会活動として公開する。
- 4) オンライン勉強会を 2 回開催する。その講師代（20,000 円）および報告書作成アルバイト代 15000 円（1000 円 x15 時間）を計上する。
- 5) 社会貢献活動として、各メンバーが医療関係者や一般市民向けの公開講座を開催する。
- 6) 室内環境学会 環境過敏症分科会と連携をとりながら、双方の学会の研究がより充実するように活動する。

【分科会メンバー(アイウエオ順) *2023 年度幹事】

代表：北條祥子，副代表：黒岩義之，水越厚史

＜医学・医療分野＞相澤好治，青木真一，上田 厚，内山巖雄，大澤 稔，奥村二郎，小倉英郎，角田和彦，近藤哲哉，坂部 貢，*鈴木高弘，鈴木珠水，平 久美子，高塚俊治，高野裕久，土器屋美貴子，*中里直美，中吉隆之，西影京子，*乳井美和子，松井孝子，宮田幹夫，山口みほ，吉田貴彦，渡井健太郎

＜建築・生物学・化学・物理学・工学・社会科学分野＞池田耕一，一條祐介，岩崎由美子，上田昌文，川瀬晃弘，木村 - 黒田純子，近藤加代子，東門田誠一，*徳村雅弘，*永吉雅人，二科妃里，長谷川麻子，林 基哉，*黄 琳琳，星野陽子，柳沢幸雄，*柳田徹郎，吉野 博